

野母半島の貝の研究と 標本 漂着プラスチック について

2022年と2025年の野母半島
の
採集した貝の変化とマイクロプラスチック
と
微小貝の採集について

研究動機

私は、小学校三年生の時に野母半島の貝がらの種類を調べました。三年たって、野母半島の海や、漂流している貝はどのような変化をしているのかももう一度調べて研究してみたいと思いました。

また、環境問題にもなっている海のごみや、マイクロプラスチックをそれぞれの場所で採集して調べてみたいと思いました。

また、マイクロプラスチックを探す際に、砂の中にいる微小貝も採集して顕微鏡で観察してみたいと思いました。

貝がらの研究手順

- 1、貝がらの採集する場所を決める
- 2、採集場所の写真を撮る
- 3、採集場所の様子を調べる
- 4、貝がらを採集する
- 5、場所ごとに分けて、数える
- 6、貝がらの種類を本で調べる
- 7、分からなかった貝がらの名前を採集品分類会で詳しく調べる
- 8、採集した場所と、日時と名前のラベルを張る。
- 9、貝がらの写真を撮って、まとめる。
- 10、それぞれの貝がどの場所で取れたのか表にして比べて考えてみる。

※微小貝は幼貝などが多く判別がつかない場合が多いので今回は顕微鏡での観察にとどめる。

貝がらの採集方法

用意したもの

バケツ、軍手、場所ごとに分ける袋

貝がらの取り方

- 1、形や色がはっきりしている貝がらを採集する。
- 2、バケツに入れて袋に入れて分ける。
- 3、貝がらを水で洗って、砂や汚れを落とす。
- 4、貝がらを乾燥させて、小さいふくろに入れる。

※微小貝については、マイクロプラスチックを採集する際に、同時に採集する

マイクロプラスチックの研究手順

- 1、 採集する範囲を決めたら写真を撮る
- 2、 範囲内のプラスチックごみを採集する
- 3、 5ミリの網に残ったプラスチックを採集する
- 4、 1ミリのふるいにかけて小さなプラスチックを採集する。
- 5、 大きなプラスチックは採集した場所と、日時と名前のラベルを張る。
- 9、 マイクロプラスチックは写真に撮って、ケースに入れる。
- 10、 それぞれの場所でどのようなマイクロプラスチックが取れたのか写真で比べて考えてみる。

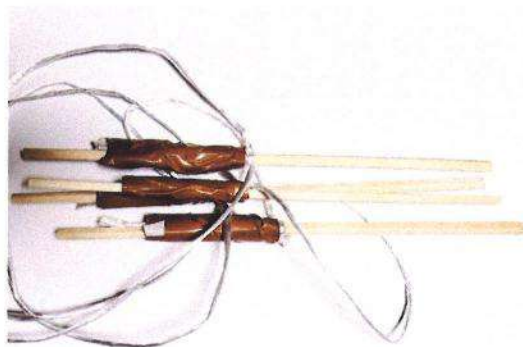
海岸でのマイクロプラスチックの 採集方法

用意したもの

プラスチックを採取する範囲を決める器具
バケツ、スコップ、軍手、場所ごとに分ける袋
5ミリのふるい、1ミリにふるい、ピンセット
ケース



日本科学未来館のマイクロプラスチックの採集の
記事を参考にしてキャンプのペグを使って20センチ範囲の
かこいを作りました。



最初に作った採集道具。
割りばしだと砂が硬くて折れてしまった。



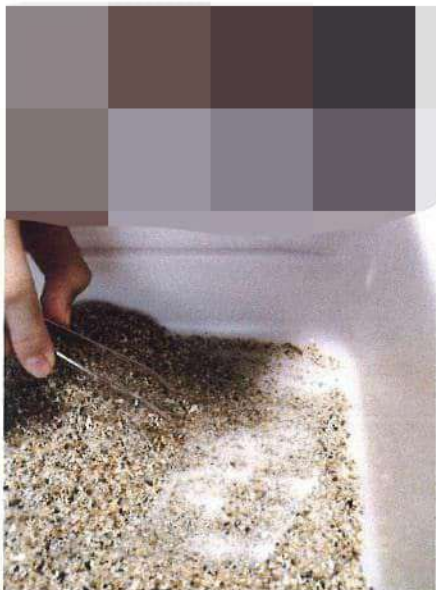
ペグを売って範囲を決める（20 c m 四方）



石や木、海藻などを取り除きながら、ふるいにかけていく。

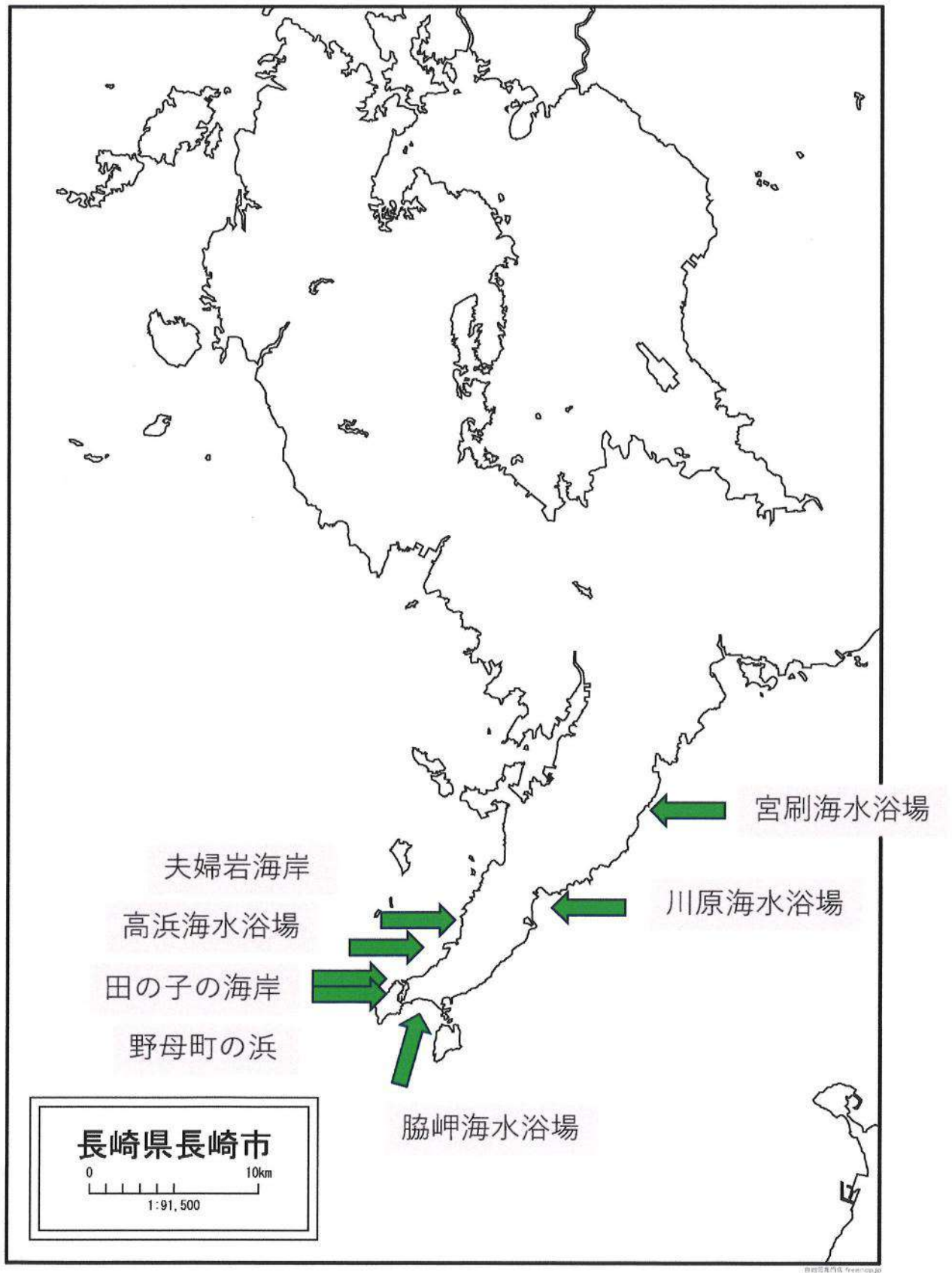
マイクロプラスチック 及び、微小貝の 採集方法

- 1、砂浜で漂流物が多く集まっているすじをさがす
- 2、範囲を決めて、流木や海藻などをどけて、大きなプラスチックは採集して袋に入れる。
- 3、スコップで範囲を2～3センチほど掘って5mmのふるいにかけて、プラスチックを採集する。
- 4、5mmの古いから落ちた砂を、1mmのふるいにかけて、残った砂を袋に入れる。
- 5、砂をバットに入れて、ピンセットでマイクロプラスチックと微小貝と思われるものを採す



※今回は「日本未来科学館」のマイクロプラスチックの採集方法を参考にして、発砲スチロールや人工芝、漁網などのわかりやすいものを採集しました。
また、微小貝は形がわかりやすい巻貝を中心に採集しました。

貝がらおよび、 マイクロプラスチックの 採集場所



夫婦岩の海岸



日時：2025年8月2日（土）

天気：晴れ

気温：31度

採集時間：午前中

午前中だったけれど、とても暑かった。
テトラポットがあったので、その場所は波
はとてもおだやかだった。
海藻が多く打ち上げられていた。
観光客がたびたび来ていた。



波はおだやかだったけれど、海藻にまざって、大きな発泡スチロールが打ち上げられていた。

この海藻をどけてみると貝が見つかった。



海藻が多く打ち上げられている場所を囲って海藻をどけて、大きなプラスチックは採集した。砂を2~3cmほど採集した。

高浜海水浴場



日時：2025年8月2日（土）

天気：晴れ

気温：33度

採集時間：午前中

かなりの暑さだった。

海水浴場として運営されていてさじきがあった。

三年前に調べた海の一つ。

海の色はきれいだった。

泳いでいる人が何人もいた。

石はほとんどなかった。

砂浜はきれいだった海藻や、ゴミは少しだけだった。



砂はとても細かった。植物が生えていた。
波打ち際は夫婦岩と同じような海藻が打ち
上げられていた。



海藻を除いて、大きなプラスチックを取り
除いた。その場所を囲って2~3 c mの砂を
採集した。

田ノ子海岸 (恐竜博物館裏の海岸)



日時：2025年8月2日（土）

天気：晴れ

気温：33度

採集時間：午後

かなり暑かった。

とても広く、長い砂浜が続く海岸だった。

小さな丸い石がたくさんあった。

海の中に入って遊んでいる人たちが多かった。

同じ種類の海藻が多く打ちあがっていて、
貝の量もかなり多かった。

ごみの量も多く、大きなブイなどが打ちあがっていた。



広く長い海岸が続いていた。海水浴場としては運営していなかったけれど、水遊びなら問題ないということだった。



海藻と発泡スチロールのごみが混ざって打ち上げられていた。範囲を決めて2~3cmプラスチック類を採取した。

野母の浜



日時：2025年8月2日（土）

天気：晴れ

気温：34度

採集時間：午後

3年前にも調べた海岸のひとつ

泳いでいる人もいたが、ごみの量がふえていたと思った。

打ち上げられた海藻の他に、大きな発泡スチロールや、外国のペットボトルや、漁網が切れた紐やロープがあった。



海藻や、バケツなどが打ち上げられていた。
発砲スチロールの容器などもあった。



海藻の中から発砲スチロールや、漁網のか
けらなどを採集して、範囲を決めて砂を採
集した。

脇岬海水浴場



日時：2025年8月2日（土）

天気：晴れ

気温：34度

採集時間：午後

とても波が高い場所だった。

砂はさらさらしていて足が埋まるほどだった。

流木や海藻が多く打ちあがっていたけれど
ごみはあまり少なかった。

外国産のペットボトルがあった。

人はまばらで海水浴というよりも、
マリンスポーツやヨット、サーフィンをして
いる人が多かった。



海の色がとても綺麗な場所だった。
波が高いので、ごみや流木は砂浜ではなく、
石の階段のところまでできていた。



波打ち際からかなり離れていた場所で採集
した。波打ち際と違って、砂の粒が少し大
きく感じた。ここも発泡スチロールが多く
ちらばっていた。

川原海水浴場



日時：2025年8月26日（火）

天気：晴れ

気温：34度

採集時間：午後

波はおだやかだった。

三年前にも行った場所だったけれど、
今年は海水浴場で泳いでいる人はいなかった。

辺りの人に聞いてみると、今年はさじきが
でていなくて、泳ぐ人もあまりみていない
らしかった。

そのせいか、とてもゴミや海藻が多かった。



満潮に近かった。砂浜の部分が見えるけれど、海の中は大きな石が多かった。



流木や大きな石、を取り除いて、プラスチックなどを拾い、範囲内の小さなごみや、プラスチックなどを砂と一緒に採集した。

宮摺海水浴場



日時：2025年7月26日（土）

天気：晴れ

気温：34度

採集時間：午後

波はおだやかだった。岩礁がある海岸だった。波打ち際は砂浜が広がっていた。

何年か前は海水浴場として泳ぐ人もいたけれど、そのうち誰もさじきなどを運営しなくなって、海水浴場という名前だけ残っているらしい。

岩礁があり、巻貝がたくさんいた。

磯のにおいが強かった。



岩礁にはマツバガイや、イシダタミなどの貝が付着していた。



波打ち際以外は、大きな岩が多く、砂が採集しにくい場所だった。ごみは取り、砂を採集した。

結果 1

それぞれの海岸で採集した貝の種類は次の通りでした。

夫婦岩海岸で見つかった 貝から

- 1 アマオブネ
- 2 イシダタミ
- 3 イワガキ
- 4 ウズイチモンジ
- 5 エガイ
- 6 カワニナ
- 7 キクザルSP
- 8 キクノハナガイ
- 9 クジャクガイ
- 10 スガイ
- 11 スズメガイ
- 12 チリボタン
- 13 トマヤガイ
- 14 ヒバリガイモドキ
- 15 ヒメアサリ
- 16 ヒメクボガイ
- 17 ヒメヨウラク
- 18 ヒラマキアマオブネ
- 19 フトコロガイ
- 20 ヘソアキクボガイ
- 21 ムラサキイガイ
- 22 ムラサキインコガイ
- 23 メダカラガイ
- 24 メンガイ
- 25 ヨメガカサ

計25種類



①アマオブネ
アマオブネ科



②イシダタミ
ニシキウズガイ科



③イワガキ
イタボガキ科



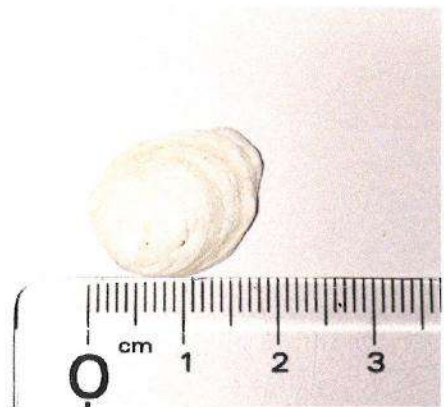
④ウズイチモンジ
ニシキウズガイ科



⑤エガイ
フネガイ科



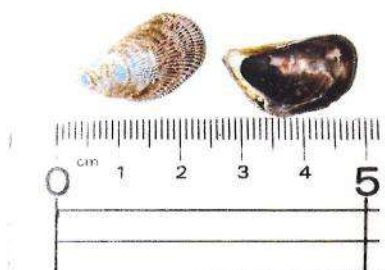
⑥カワニナ
カワニナ科



⑦キクザルSP
マルスダレガイ科



⑧キクノハナガイ
カラマツガイ科



⑨クジャクガイ
イガイ科



⑩スガイ
リュウテンサザエ科



⑪スズメガイ
スズメガイ科



⑫チリボタン
ウミギク科



⑬トマヤガイ
トマヤガイ科



⑭ヒバリガイモドキ
イガイ科



⑮ヒメアサリ
マルスダレガイ科



①⑥ ヒメクボガイ
バテイラ科



①⑦ ヒメヨウラク
アッキガイ科



①⑧ ヒラマキアマオブネ
アマオブネ科



①⑨ フトコロガイ
フトコロガイ科



①⑩ ヘソアキクボガイ
ニシキウズガイ科



②① ムラサキイガイ
イガイ科



②② ムラサキインコガイ
イガイ科



②③ メダカラガイ
タカラガイ科



②④ メンガイ
ミミガイ科

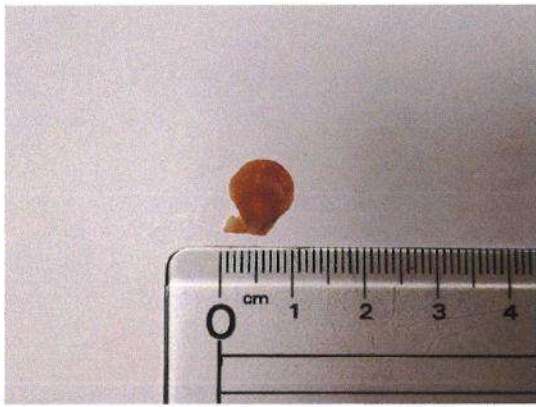


②⑤ ヨメガカサ
ヨメガカサガイ科

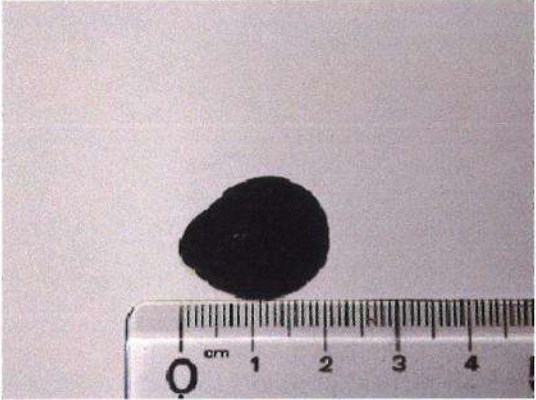
高浜海水浴場で見つかった 貝がら

- 1 アズマニシキ
- 2 アマオブネ
- 3 ウメノハナ
- 4 ウラウズガイ
- 5 クジャクガイ
- 6 サルボオ
- 7 チゴバカガイ
- 8 チリボタン
- 9 ナデシコ
- 10 ナミノコガイ
- 11 ネズミノテ
- 12 バカガイ S P
- 13 ムラサキインコガイ
- 14 メダカラ

計14種類



①アズマニシキ
イタヤガイ科



②アマオブネ
アマオブネ科



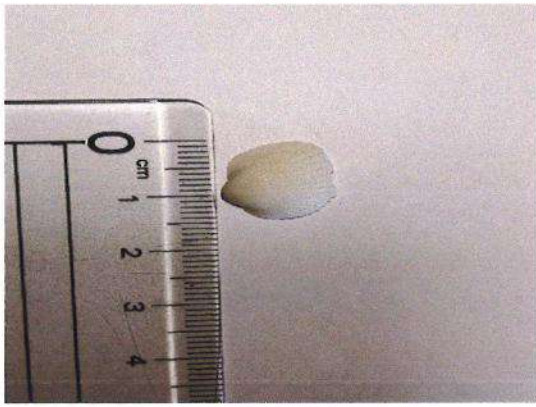
③ウメノハナ
ツキガイ科



④ウラウズガイ
サザエ科



⑤クジャクガイ
イガイ科



⑥サルボオ
フネガイ科



⑦チゴバカガイ
バカガイ科



⑧チリボタン
ウミギク科



⑨ナデシコ
イタヤガイ科



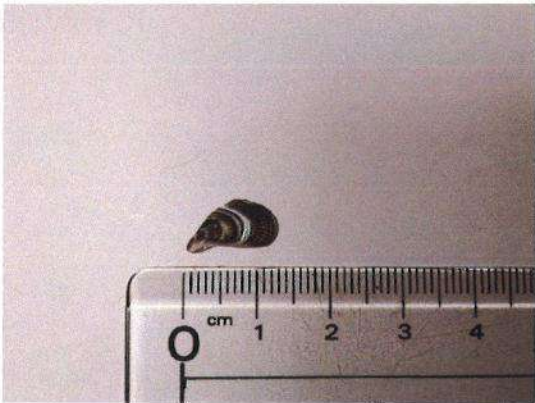
⑩ナミノコガイ
フジノハナガイ科



⑪ネズミノテ
ネズミノテ科



⑫バカガイ S P
マルスダレガイ科



⑬ムラサキンコガイ
イガイ科



⑭メダカラ
タカラガイ科

田ノ子海岸で見つかった 貝がら

- 1 アナアキウスガイ
- 2 アマオブネ
- 3 イナミガイ
- 4 イボニシガイ
- 5 ウネレイシダマシ
- 6 ウミギク
- 7 ウラウスガイ
- 8 カリガネエガイ
- 9 キクノハナ
- 10 クジャクガイ
- 11 クマノコガイ
- 12 コベルトカニモリ
- 13 ゴマフホラダマシ
- 14 シマレイシダマシ
- 15 スガイ
- 16 タケノコガイ S P
- 17 トウガタカニモリ
- 18 ニシキウスガイ
- 19 ネズミノテ
- 20 ヒメアサリ
- 21 ヒメクボガイ
- 22 ヒメヨウラク
- 23 フトコロガイ
- 24 マガキガイ
- 25 マルスダレガイ
- 26 ムギガイ
- 27 メダカラ
- 28 ヤタテガイ

計28種類



① アナアキウズガイ
ニシキウズガイ科



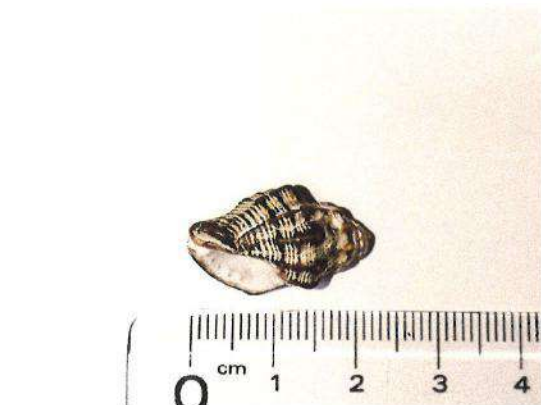
② アマオブネ
アマオブネ科



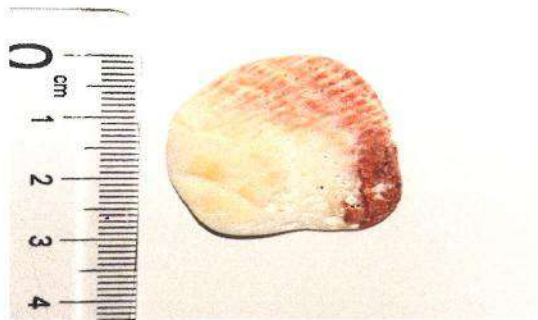
③ イナミガイ
マルスダレガイ科



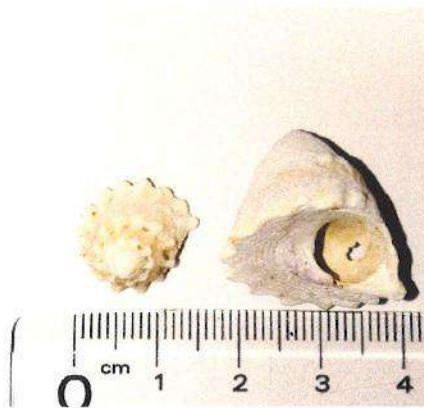
④ イボニシガイ
アッキガイ科



⑤ ウネレイシダマシ
アッキガイ科



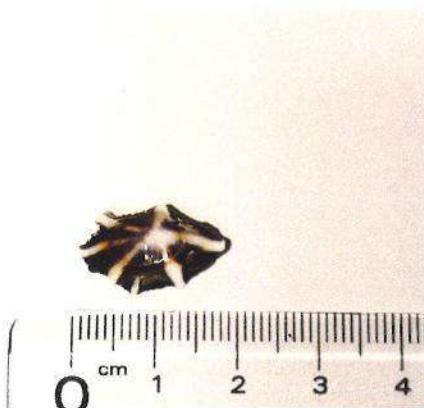
⑥ウミギク
ウミギク科



⑦ウラウズガイ
サザエ科



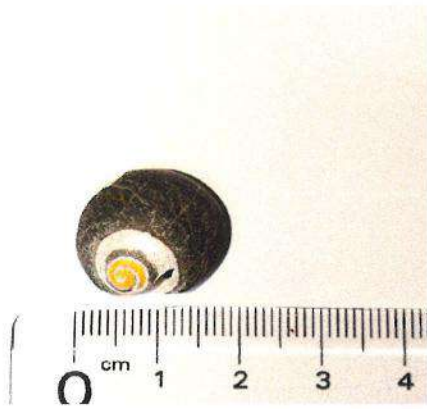
⑧カリガネエガイ
フネガイ科



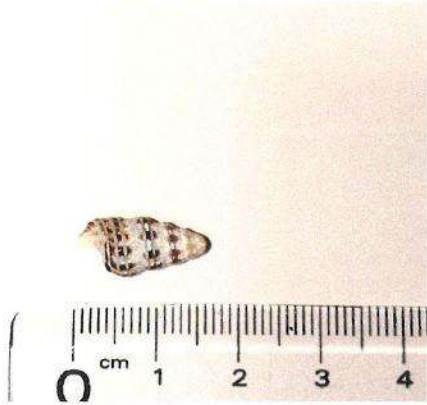
⑨キクノハナ
カラムツガイ科



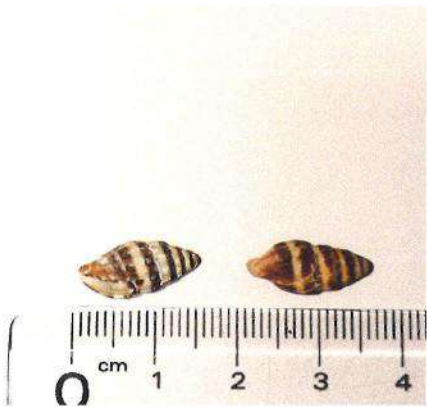
⑩クジャクガイ
イガイ科



⑪クマノコガイ
ニシキウズガイ科



⑫コベルトカニモリ
オニノツノガイ科



⑬ゴマフホラダマシ
アッキガイ科



⑭シマレイシダマシ
アッキガイ科



⑮スガイ
リュウテンサザエ科



①⑥ タケノコガイ S P
若しくはニイタケ
タケノコガイ科



①⑦ トウガタカニモリ
オニノツノガイ科



①⑧ ニシキウズガイ
ニシキウズガイ科



①⑨ ネズミノテ
ネズミノテ科



①⑩ ヒメアサリ
マルスダレガイ科



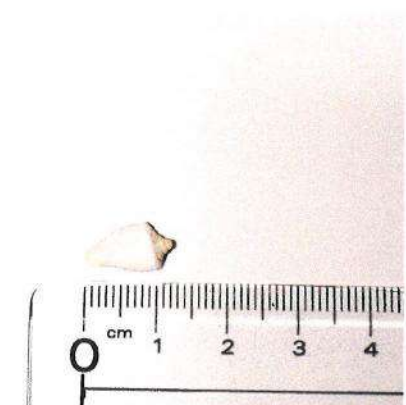
②① ヒメクボガイ
バテイラ科



②② ヒメヨウラク
アッキガイ科



②③ フトコロガイ
アッキガイ科



②④ マガキガイ
ソデボラ科



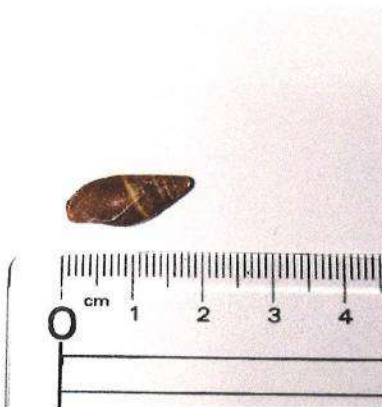
②⑤ マルスダレガイ
マルスダレガイ科



②⑥ ムギガイ
フトコロガイ科



②⑦ メダカラ
タカラガイ科



②⑧ ヤタテガイ
フデガイ科

野母の浜で見つかった 貝がら

- 1 アマオブネ
- 2 イナミガイ
- 3 イボニシ
- 4 ウズイチモンジ
- 5 ウネレイシダマシ
- 6 エガイ
- 7 カキツバタ
- 8 クジャクガイ
- 9 クリフレイシ
- 10 コシロガイ
- 11 コベルトフネガイ
- 12 ザクロガイ
- 13 トマヤガイ
- 14 ヒメクボガイ
- 15 フトコロガイ
- 16 マガキガイ
- 17 マツムシ
- 18 ムラサキインコガイ
- 19 メダカラ

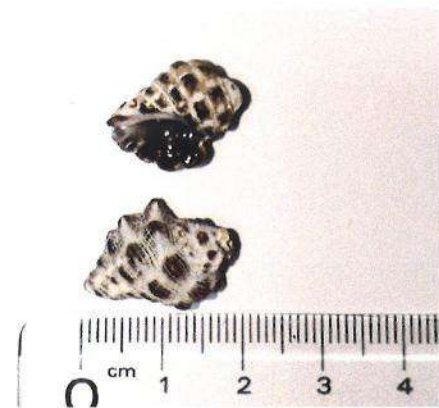
計19種類



①アマオブネ
アマオブネガイ科



②イナミガイ
マルスダレガイ科



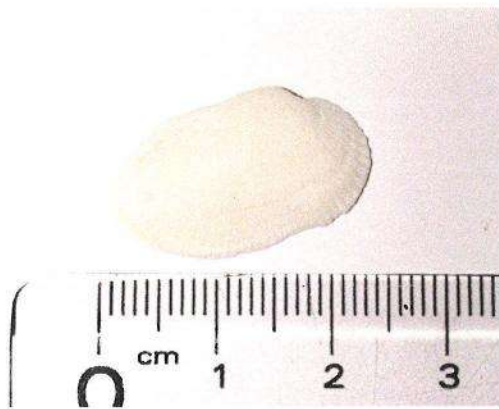
③イボニシ
アッキガイ科



④ウズイチモンジ
ニシキウズガイ科



⑤ウネレイシダマシ
アッキガイ科



⑥エガイ
フネガイ科



⑦カキツバタ
ベッコウガキ科



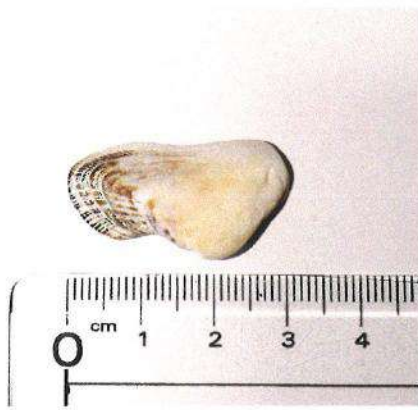
⑧クジャクガイ
イガイ科



⑨クリフレイシ
アッキガイ科



⑩コシロガイ
フネガイ科



⑪コベルトフネガイ
フネガイ科



⑫ザクロガイ
シラタマガイ科



⑬トマヤガイ
トマヤガイ科



⑭ヒメクボガイ
ニシキウズガイ科



⑮フトコロガイ
フトコロガイ科



①⑥ マガキガイ
ソデボラ科
(スイショウガイ科)



①⑦ マツムシ
フトコロガイ科



①⑧ ムラサキインコガイ
イガイ科

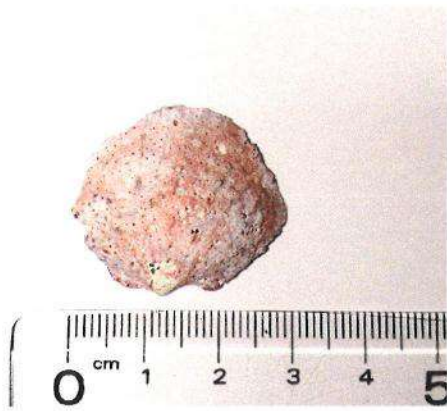


①⑨ メダカラ
タカラガイ科

脇岬海水浴場で見つかった 貝がら

- 1 カキツバタ
- 2 キサゴ
- 3 クリフレイシ
- 4 シマワスレ
- 5 タマキガイ
- 6 チリボタン
- 7 トウガタカニモリ
- 8 トマヤガイ
- 9 ネズミノテ
- 10 フトコロガイ
- 11 ムシボタル
- 12 ムラサキインコガイ

計12種類



⑥チリボタン
ウミギクカイ科



⑦トウガタカニモリ
オニノツノガイ科



⑧トマヤガイ
トマヤガイ科



⑨ネズミノテ
ネズミノテ科



⑩フトコロガイ
フトコロガイ科



①カキツバタ
アマオブネガイ科



②キサゴ
ニシキウズガイ科



③クリフレイシ
アッキガイ科



④シマワスレ
マルスダレガイ科



⑤タマキガイ
タマキガイ科

⑪ ムシボタル
マクラガイ科



⑫ ムラサキインコガイ
イガイ科



川原海水浴場で見つかった 貝がら

- 1 アコヤガイ
- 2 アズマニシキ
- 3 アマオブネ
- 4 アワブネ
- 5 ウノアシ
- 6 キクノハナ
- 7 クジャクガイ
- 8 ツクシタケ S P
- 9 トマヤガイ
- 10 ヒメアサリ
- 11 フトコロガイ
- 12 ヘソアキクボガイ
- 13 マガキ
- 14 ムラサキインコガイ

計14種類

- ※貝の分類会に間に合わなかったので、本や今までの資料から分類したもの。



①アコヤガイ
ウグイスガイ科



②アズマニシキ
イタヤガイ科



③アマオブネ
アマオブネ科



④アワブネ
カリバガサガイ科



⑤ウノアシ
ユキノカサガイ科



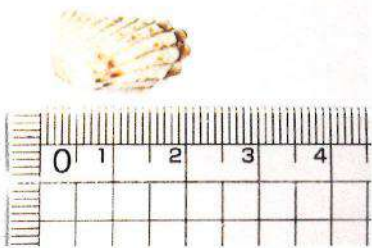
⑥キクノハナ
カラマツガイ科



⑦クジャクガイ
イガイ科



⑧タケノコガイ S P
タケノコガイ科



⑨トマヤガイ
トマヤガイ科



⑩ヒメアサリ
マルスダレガイ科



⑪フトコロガイ
フトコロガイ科



⑫ヘソアキクボガイ
ニシキウズ科



⑬マガキ
イタボガキ科



⑭ムラサキインコガイ
イガイ科

宮摺海水浴場で見つけた 貝がら

- 1 アマオブネ
- 2 エガイ
- 3 オミナエシダカラ
- 4 カノコアサリ
- 5 カリガネエガイ
- 6 キクザル S P
- 7 クジャクガイ
- 8 ケガキ
- 9 タマキガイ
- 10 チリボタン
- 11 トマヤガイ
- 12 ヒメアサリ
- 13 ヒメヨウラク
- 14 フトコロガイ
- 15 マツバガイ
- 16 ムラサキンコガイ

計16種類



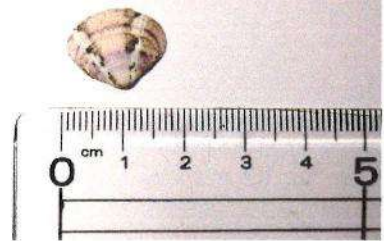
①アマオブネ
アマオブネガイ科



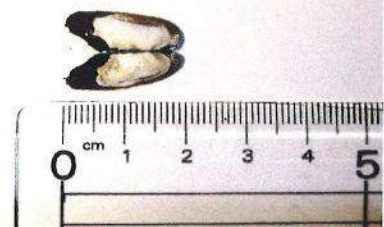
②エガイ
フネガイ科



③オミナエシダカラ
タカラガイ科



④カノコアサリ
マルスダレガイ科



⑤カリガネエガイ
フネガイ科



⑥キクザルSP
キクザルガイ科



⑦クジャクガイ
イガイ科



⑧ケガキ
イタボガキ科



⑨タマキガイ
タマキガイ科



⑩チリボタン
ウミギクガイ科



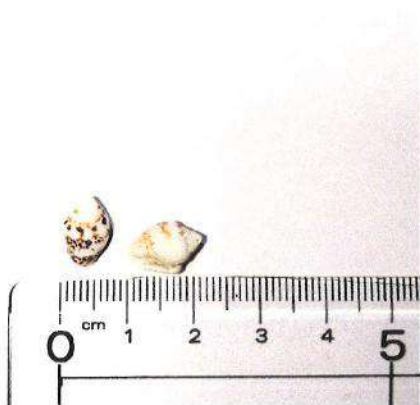
⑪ トマヤガイ
トマヤガイ科



⑫ ヒメアサリ
マルスダレガイ科



⑬ ヒメヨウラク
アッキガイ科



⑭ フトコロガイ
フトコロガイ科



⑮ マツバガイ
ヨメガカサ科



⑩ ムラサキインコガイ イガイ科

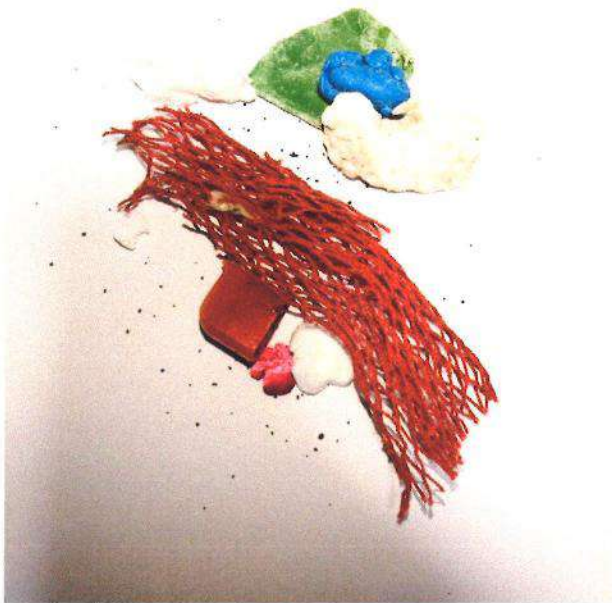
結果2

それぞれの海岸で採集した
プラスチックと、
マイクロプラスチックは次の通
りでした。

夫婦岩海岸

夫婦岩の海岸

プラスチック



5mm以上のふるい

何かの網のようなもの
プラスチックのおもちゃ
発泡スチロールが多かった



5mm以下のふるい

細かい発泡スチロールが
多かった。
透明なビーズのような、
ガラスのようなものも
混ざっていたので採集した。

高浜海水浴場



5mm以上のふるい

ストローのかけらのような
ものと、風船のかけらの
ようなものが混ざっていた



5mm以下のふるい

網かなにかの糸が見つかった

田ノ子海岸

5mm以上のふるい



お皿のような発泡スチロールのかけらと、緑色のスポンジのようなもの、ビニール袋のかけら、発泡スチロールが見つかった。

5mm以下のふるい

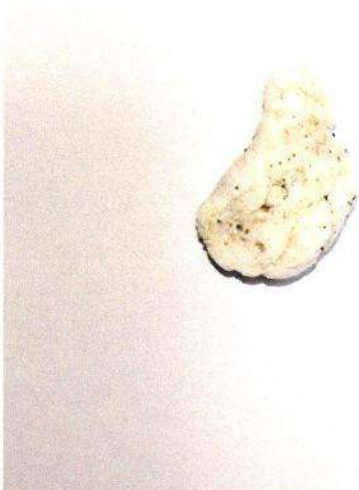


小さな発泡スチロールが多く見つかった。

野母の浜

野母の浜

プラスチック



5mm以上のふるい

発泡スチロールが見つかった。



5mm以下のふるい

ちいさなビーズのような
かけらが見つかった。

(ガラスかもしれない)
緑色のやわらかいプラスチック
が出てきた。

脇岬海水浴場



5mm以上のふるい

ピンク色の何かの容器の
薄いプラスチックがあった。
古い発泡スチロールが
多かった。



5mm以下のふるい

小さくて、
やわらかい発泡スチロールが
出てきた。

川原海水浴場

川原海水浴場

プラスチック



5mm以上のふるい

何かの紐や、プラスチックの破片。発泡スチロール、おもちゃのタイヤなど、色々な種類のプラスチックが見つかった。

5mm以下のふるい

小さい発泡スチロールがたくさん出てきた。青い色の紐や、硬いプラスチックのかけらなどもあった。

川原海水浴所
マイクロ
プラスチック



宮摺海水浴場

宮摺海水浴場

プラスチック



5mm以上のふるい

何かの網がからまっている
固まりがでてきた。

5mm以下のふるい

網のかけらの糸が出てきた。
発泡スチロールはみあた
らなかった。

宮摺海岸
マイクロ
プラスチック



結果3

それぞれの海岸で採集した
微小貝は以下の通りでした。

微小貝が採集できたのは、

高浜海水浴場 11個
田ノ子海岸 16個
野母の浜 7個
脇岬海水浴場 4個
宮摺海水浴場 3個
の5か所のみでした。

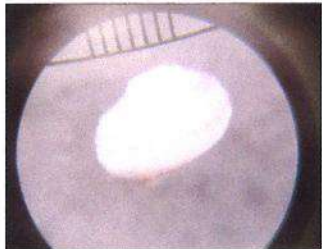
それぞれ50倍の顕微鏡で観察しました。



高浜海水浴場取れた微小貝の中の1個



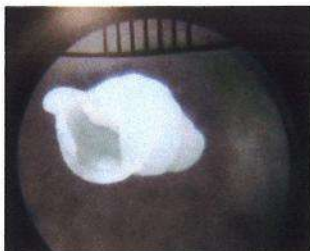
田ノ子海岸取れた微小貝の中の1個目



田ノ子海岸取れた微小貝の中の2個目



野母の浜抜粋取れた微小貝の中の1個



脇岬海水浴場で取れた微小貝の中の1個



宮摺海水浴場で取れた微小貝の中の1個

結果4

それぞれの海岸で採集した砂は以下の通りでした。



夫婦岩の海岸



脇岬海水浴場



高浜海水浴場



川原海水浴場



田ノ子海岸



宮摺海水浴場



野母の浜

考察

2022年に行った

「野母の浜」

「高浜海水浴場」

「川原海水浴場」

で採集した貝がらと

今年2025年に

採集した貝がらを
それぞれ表にして

一致する貝を整理しました。

野母の浜

2022年

- 1 アズマニシキ
- 2 アマオブネ
- 3 イタボガキ
- 4 イナミガイ
- 5 イボニシ
- 6 ウズイチモンジ
- 7 ウラウズガイ
- 8 エガイ
- 9 オミナエシダカラ
- 10 カリガネエガイ
- 11 キクザル
- 12 キクノハナガイ
- 13 ギンタカハマ
- 14 クジャクガイ
- 15 クマノコガイ
- 16 クロオトメフデ
- 17 コシタカサザエ
- 18 シオフキ
- 19 シボリダカラ
- 20 チリボタン
- 21 テンガイ
- 22 トマヤガイ
- 23 ナツモモ
- 24 ヒメクボガイ
- 25 ヒメヨウラク
- 26 フデガイ
- 27 フトコロガイ
- 28 ヘソアキクボガイ
- 29 マガキ
- 30 マガキガイ

2025年

- 1 アマオブネ
- 2 イナミガイ
- 3 イボニシ
- 4 ウズイチモンジ
- 5 ウネレイシダマシ
- 6 エガイ
- 7 カキツバタ
- 8 クジャクガイ
- 9 クリフレイシ
- 10 コシロガイ
- 11 コベルトフネガイ
- 12 ザクロガイ
- 13 トマヤガイ
- 14 ヒメクボガイ
- 15 フトコロガイ
- 16 マガキガイ
- 17 マツムシ
- 18 ムラサキインコガイ
- 19 メダカラ

高浜海水浴場

2022年

- 1 ウメノハナ
- 2 ネズミノテ
- 3 ユウシオガイ

2025年

- 1 アズマニシキ
- 2 アマオブネ
- 3 ウメノハナ
- 4 ウラウズガイ
- 5 クジャクガイ
- 6 サルボオ
- 7 チゴバカガイ
- 8 チリボタン
- 9 ナデシコ
- 10 ナミノコガイ
- 11 ネズミノテ
- 12 バカガイSP
- 13 ムラサキインコガイ
- 14 メダカラ

川原海水浴場

2022年

- 1 アサリ
- 2 アズマニシキ
- 3 イナミガイ
- 4 シマレイシダマシ
- 5 トマヤガイ
- 6 ヒメアサリ
- 7 ヒメヨウラク
- 8 フトコロガイ
- 9 ムラサキイガイ

2025年

- 1 アコヤガイ
- 2 アズマニシキ
- 3 アマオブネ
- 4 アワブネ
- 5 ウノアシ
- 6 キクノハナ
- 7 クジャクガイ
- 8 ツクシタケ S P
- 9 トマヤガイ
- 10 ヒメアサリ
- 11 フトコロガイ
- 12 ヘソアキクボガイ
- 13 マガキ
- 14 ムラサキインコガイ

1、三年前と今回の採集で何が変わったか考える

まず、

野母の浜

で三年前と同じ貝は

9種類

ありました。なので、この9種の貝はこの海岸で変わらずに採集できる貝だと考えました。なので、この海域に生息している貝なのではないかと考えました。

けれども、三年前の方が貝がら多く採集できているのに、どうして今回は採集できる貝が減ってしまったのか考えました。

一つは、砂浜が三年前と比べて、海藻や、ごみが多くなっていると感じました。また、貝がらの量もとても少なくなっていたと感じました。

採集した貝がらも、海藻の下になっていたり、からまっていたりと採集しにくいと感じました。なので、砂浜にある貝がらを見つけにくかったからなのではないかと考えました。

また、以前は砂浜に多くあった陶器のかけらが一つもありませんでした。なので、この三年間の間に、砂浜の掃除や大きな波が来たりなど、大きな変化があったのではないかと考えました。

次に、
高浜海水浴場
で三年前と同じ貝は
2種類

でした。なので、これらの貝は高浜海水浴場で
多く採集できる貝がらだと考えました。

そして、今回は前回と違って多くの種類の貝が
らを見つけることができました。

一つは、三年前よりも漂流物が多いと感じたか
らです。砂浜にある海藻の量も多く、流れ着く
貝もそのままになっていたのではないかと考え
ました。

なので、海藻が打ち上げられている砂浜の筋が
できていて、そこで多くの貝がらを見つけるこ
とができました。

そして、私はこの三年間で色々な貝を見てきた
ので、

以前は貝がらだと思わなかったものがわかって
きて多くの種類が採集できたのではないかと考
えました。

次に、

川原海水浴場

では、三年前と同じ種類の貝がらは

4種類

が同じ貝がらでした。

なので、この4種類の貝は川原海水浴場でよく流れ着く貝がらだと考えました。

川原海水浴場では、三年前よりも多くの貝がらを拾うことができました。これは、地元の方に聞いたところ、去年ぐらいまで海水浴場として利用されていたけれど、今年はあまり利用されていなかったということでした。

なので、砂浜にもごみや海藻が多く、たくさんありました。なので、片付けられないまま貝がらもそのまま放置されていたので、三年前よりも多くの貝がらが採集できたのではないかと考えました。

写真での比較

野母の浜



2022年



2025年

高浜海水浴場



2022年



2025年

川原海水浴場



2022年



2025年

2、海岸のプラスチックごみを考える。

今回調査した7か所の海岸からは、すべての砂浜にプラスチックがありました。

中でも多かったのは、

田ノ子海岸と

川原海水浴場

です。

田ノ子海岸

のゴミの多くは日本のペットボトルや、お菓子の包み、発泡スチロールや、ブイなどが打ち上げられていました。海藻もテングサのようなからまるものが多く、その中に発泡スチロールなどが入り込んでいました。また、マイクロプラスチックも多く見つかりました。

聞いてみると、この海岸は砂浜がとても長く、ゴミが流れ着きやすい海流になっているそうです。

また、観光客がとても多く、水遊びなどをしている人が置いて行ったペットボトルなどもありました。そのため、この海岸はゴミが多いのだと考えました。

川原海水浴場

は、近くにいた人に聞いてみると、今年は海水浴場として利用する人がいなくなってしまった為、管理をするひとがいなくなってしまったということでした。なので、流れ着くゴミがそのままになってしまったのではないかと考えました。

また、この海岸では外国のペットボトルなどが見つかりました。なので、田ノ子海岸とは別の海の流れがあり、ゴミが流れ着いてくるのではないかと考えました。

宮摺海水浴場

も、海水浴場として閉鎖されてしまったところは同じですが、この海岸はゴミの量は思ったよりも少なく波打ち際にはきれいな砂浜が広がっていました。

海水浴場ではなくなりましたが、最近はマリンスポーツに利用されていることが多く、管理されているので、ゴミが少ないのではないのかと考えました。

夫婦岩の海岸

では大型のゴミが多かったけれども、満潮になってくると岸壁近くまで海があがってくるので、砂浜に残るごみは少なく、テトラポットなどに引っかかっているごみを見ました。なので、とても大きなごみと小さなプラスチックだけが砂浜に残るのではないかと考えました。また、こちらも観光地なので、管理している人がいるのではないかと考えました。

高浜海水浴場

では、海水浴場にさじきがでていて、掃除をする管理者の方がいるので、目に付くゴミの数は少ないのではないかと考えました。けれども、海藻が多く、その海藻に付いてくる発泡スチロールなどのごみが多いのではないかと考えました。

脇岬海水浴場

は、とても波が高く海藻も多くありました。
特に発泡スチロールのゴミが多かったですが、
すごくゴミが多いとは思いませんでした。

こちら、海水浴場としては泳ぐ人はあまりいませんが、マリンスポーツでヨットや、サーフィンをしたり管理しているひとがいるからなのではないかと思いました。

また、自販機の側にきちんとゴミ箱があったり、県指定の天然記念物の脇岬のビーチロックがある場所として管理されているのではないかと考えました。

3、微小貝の採集を考える

微小貝が採集できたのは、

高浜海水浴場	11個
田ノ子海岸	16個
野母の浜	7個
脇岬海水浴場	4個
宮摺海水浴場	3個

の5か所のみでした。

微小貝が全く採集できなかった場所は、

夫婦岩海岸と
川原海水浴場でした。

多く取れた場所から考えると、
砂浜で、
波打ち際に近い漂流物のすじの位置
で採集した所は微小貝が多かったです。

逆に全く取れなかった場所を考えると、
波打ち際から少し遠い場所で採集した所でした。

特に、

川原海水浴場

はさらさらした砂を採集したのですが、微小貝が全く見つかりませんでした。

しかし、砂をよく見てみると、高浜などの砂と違って、キラキラしたガラスのような砂が多かったと感じました。

夫婦岩海岸

は貝がらが多く見つかった場所でしたが、細かい石の粒でできた海岸でした。

なので、微小貝がとても見つけにくく、貝のかけらばかりが見つかりました。

なので、微小貝は波打ち際で多く見つかり、海岸の砂の粒などで採集できる量が違うのだと考えました。

4、野母半島の貝を考える

最後に、野母半島の貝について詳しい方にお話を聞きたいと思って、脇岬町で、

多くの貝を展示されている

「貝の家」

を運営されている

緒方権次郎先生

にインタビューをしに行きました。

まず最初に私は、

緒方先生にどうして貝を好きになったのか聞きました。

緒方先生は昔、野母崎にあった

マリンランド

という貝を展示していた博物館で働いていたそうです。

その前は、山に登ったりしていたそうです。

最初は食べる貝しか知らなかったけれど、
博物館でお仕事をするようになって、
小菅先生という先生に出会ったそうです。

その小菅先生から、本気で貝の勉強をしたいなら教えるよ。

と言われたそうです。

こういう学問もあるのか、と思った先生は、
貝が軟体動物だということを知り、

それから小菅先生にわからないことがあったら
電話したり、勉強を十年間、夜寝るのも惜しんで一生懸命勉強したそうです。

それから、貝に詳しくなって好きになったということでした。

次に、野母崎の貝は今と昔とどのように変わったと考えられますか？と質問させていただきました。

すると、緒方先生は、

やはり、温暖化が影響していると考えられるとおっしゃられました。

海の水温が上がり、前は鹿児島や、屋久島付近にしかいなかった貝が、野母崎まで上がるようになってきたということでした。

その代表的なものが、

タツマキサザエ

という貝だそうです。

30年前ぐらいまでは枕崎までしかいなかった貝が、3年ぐらいから野母崎で取れたそうです。

以前も卵までは潮に乗ってやってきたけれど、

寒くて冬を越せなかったものが、温暖化で冬を越せるようになってきて、野母崎の海でも取れるようになってきたということでした。

他にも温暖化で見つかるようになった貝はあるけれど、代表的な貝はこのタツマキサザエだということでした。

他にもリュウテンサザエはまだ沖縄に生息しているけれど、おそらく、これも野母崎にあがってくるのではないかと緒方先生はおっしゃられていました。

最後に、私は緒方先生に、
貝が好きな子供たちに何か伝えたいことはありますか。
と質問しました。

緒方先生は、貝のことで何かひっかかったり、
わからないことがあったら、まずは何でも聞いて
質問しよう。とおっしゃられていました。

緒方先生が69歳の時に貝のことでテレビに出演
された時にこうおっしゃったそうです。

最近の子供たちは生物に興味を持つ子が少ない
ので、なんとかそういう子供たちが興味があれば
いつでも教えます。と、

貝の家には貝が好きな子供たちが来て、貝がら
をあげるととても大事そうに持って帰るそうで
す。

さらに、貝の家には専門書もあるので、たくさ
んわからないことがあれば教えてあげるという
ことでした。

また、その専門書は英語で書かれているので、
英語の勉強をした方がいいということでした。

また、貝の勉強はとても難しいけれど、
とてもおもしろいとおっしゃっていました。

どの貝がどこで採れたものなのか、地理にも
強くなっていくので、アフリカの地理など、テ
レビで流れてもすぐに地域がわかるとおっしゃ
られていました。

また、ラテン語でモレータという貝の名前があ
り、このモレータは、英語のマネーのもとに
なった言葉だというお話を聞きました。
そういう繋がりがおもしろいとおっしゃられて
いました。

なので、緒方先生は何十年も貝の勉強をされて
いても苦にならないとおっしゃられていました。



緒方先生と私



緒方先生が倉庫を改造して
貝を展示されている
「貝の家」

入場料 大人200円
子供100円

開館時間 12時～18時ごろ
休業日不定休



オウムガイ
ワシントン条約で

国際取引が難しくなっている。
ノーチラス号のお話を聞いた。



緒方先生に頂いた貝
フィリピンの貝や、
脇岬で採れたツキヒガイ(右)

感想

今回、三年前に初めて貝の標本を作った場所と新しい地域を調査しました。

三年前よりも多くの貝がらを調査することができて、新しい貝をたくさん知ることができて、野母半島にはまだまだ知らない多くの貝がらが流れ着いていることを知りました。

また、今回プラスチックとマイクロプラスチックを採集して、海岸のごみ問題を考えたことも新たな発見がありました。

海水浴場としてきれいな砂浜に見えるところにも、小さな発泡スチロールが埋まっていたり、砂をふるいにかけている時に風に乗って飛んでいってしまったりと、採集が大変でした。

砂浜にも大きなプラスチックが流れ着いていて波が来るたびに砕けそうになっていく様子を見て、こうやって、また海にプラスチックが増えて行って海が汚れていくことはとても悲しいことだと思いました。

今は、ゴミ拾いをスポーツにしたり、地域の方々がゴミ拾いをしたりと砂浜をきれいにする活動が多くなってきて、今度参加してみたいと思いました。

今回、プラスチックごみを海岸で拾って、家庭ごみで捨てていいのか、市役所の方に問い合わせたところ、海外のペットボトルや、プラスチック、くだけたプラスチックなどは再利用できないので、家庭ごみの燃えるごみで捨てても大丈夫だということでした。

なので、今度はゴミ袋をたくさん持って、調査と一緒にごみ拾いもたくさんしたいと思いました。

また、何よりも、家庭からのプラスチックを出さないことが大事だと思います。

なので、飲み物を買う時もラベルレスや、再利用できる商品を選んだり、資源ごみにきちんと捨てて、再利用できるように自分で分別をしていきたいと思いました。

そして、もっと野母半島で泳げるきれいな海岸が増えていけばいいなと思いました。

また、今回、貝の分類会でいつもお世話になっている先生方や、「貝の家」の緒方先生にお会いできて、貝の学問の面白さを改めて考えることができました。

自分で見分けがつかなかった貝が判明すると嬉しくなります。また、自分で調べた貝の名前がっていると「やった！」と思いました。

いつかは調査しながら貝の名前をすぐに判別できるようになればいいなと思いました。

そして、緒方先生がおっしゃられていたように、貝のことでわからないことがあれば、どんどん聞いていこうと思いました。

そして、いつか貝の学問書³を読めるように、英語の勉強をしていこうと思いました。

また、その貝がどこから来たのかなど、もっと詳しく貝を知るために必要な、勉強をしていければいいなと思いました。

最後に今回の野母半島で採集した貝がらのなかで長崎県のレッドリストに載っていたのは、

キサゴ

ゴマフホラダマシ

マルスダレガイ

ニシキウズ ガイ

の5種類でした。

これからもレッドリストをチェックして、貝の調査を続けていきたいと思います。

謝辞

お世話になった先生方

長崎市科学館採集品分類会にて

小原良典先生

樋口一成先生

岩本航先生

野母崎脇岬町「貝の家」

緒方権次郎先生

ありがとうございました。

参考文献

「日本の貝」
昭和43年 波部忠重 著

「学研の図鑑 貝」
2002年 馬場勝良 著

「海辺の生き物大探検！生物多様性から環境問題まで」
2019年 川島一成 著

長崎県レッドリスト
<https://www.pref.nagasaki.jp/shared/uploads/2022/03/1648644059.pdf>

長崎県の白地図

日本未来科学館
「科学コミュニケーターブログ」
<https://blog.miraikan.jst.go.jp/articles/20190809post-55.html>

「海洋プラスチック～魚の量をこえる！？」

幸運社/編 高田秀重著WWF ジャパン/協力

微

微笑

小貝見つけて

